

メーサイ市にはしご車を寄贈

宇都宮市消防本部からIIFFに引き渡し

タイのメーサイ市に贈られるはしご車が13日、宇都宮市消防本部から茨城国際親善厚生財団「IIFF」に引き渡されました。

このはしご車は、1994年製造で、20年間にわたって宇都宮市南消防署築下分署で活躍し、昨年いっぱい引退した消防車両です。はしごはシグマ式と呼ばれるZ式に折りたたまれたはしごが伸びる、当時の最先端の車両です。高さは約20m、



ビルの6、7階まで伸び、Z式にたたまれたことで、電線など

の障害物を避けながら消火活動や救助活動ができるという優れた特徴を持っています。

車両は全長約8.6m、全高3.7m、全幅2.4m、重量13t。はしごの先につけられたバケットは、約250kgの重量まで載せることができるといい、消火活動時には2人が乗って放水による消火活動を行うほか、救助の際には2人が乗り込んで、1人が要救助者のサポートで人命を助ける

近くタイの消防署員が日本で操縦訓練

などの活動を行ってきたといいます。築下分署では「20年選手だが、性能的にも非常に優れた車両です」と話していました。

IIFFによると、タイではバンコク以外でははしご車の利用はないということで、タイ北部での初めてのはしご車の配備になります。

IIFFでは、メーサイ市の消防署員を日本に招き、はしご車の操縦訓練を行った後に、タイに贈る予定です。

平成26年6月16日

